

# 校長室だより

9月号

## ☆防災について

暑い日が続いていますが、秋空がみられるようになり、校庭をとんでいる赤とんぼの数も増えてきました。確実に秋が近づいています。

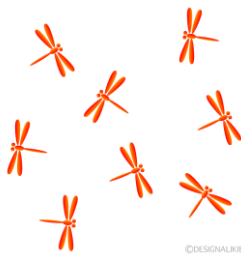
登校日の子どもたちをみて、わずかひと月ですが、大きくなったなど感じました。運動会、修学旅行、マラソン大会等行事がたくさんあり、子どもたちを伸ばす機会がたくさんあります。この2学期に成長した姿を見せてくれるのが楽しみです。

さて、8月9日（金）日向灘で地震があり、あわせて、南海トラフ「巨大地震注意報」が発表され、海水浴場もしばらくのあいだ閉鎖されるなど対応がとられ、大地震にそなえなければならぬ気運が高まりました。学校でも避難訓練をより気を引き締めて行っていきます。

元旦の能登半島地震では、「外国人窃盗団が能登半島に集結している」といった根拠のない偽情報がSNSで拡散しましたようです。関東大震災（1923年）のときと同じように流言が出るのだなと思いました。悲惨な事件等にしないためにもデマや流言（りゅうげん）にも対応できるようにしなければいけないと思いました。

中国の戦国時代の思想家・荀子（じゅんし）は、「流言は智者にとどまる」という格言を残しました。知恵のある人はそれを他人に話さないから、流言はそこで止まるという意味です。東京大学の関谷教授は「流言の可能性が高いと思ったら、伝えずに広げない。それを一人一人心がけることが、最大の対策に繋がります」と言っています。

地震に対応すべきことは、たくさんあります。ひとつひとつ丁寧に取り組んでいきたいです。



## ☆NHK の番組ドキュメント72時間（フランス・パリの漫画

### 喫茶）より

夏休みにNHKの番組72時間でパリの漫画喫茶が取材されていました。フランスの子どもや大人たちが遠くからわざわざ2時間以上もかかっている人たちもいました。子どもにたずさわる仕事をしていた男性はGTOを読み、また、また、仕事に戻ろうかなど話をしていました。インタビューから娯楽というよりは、大人たちは人生のヒントをもらいにここにきているのではと思いました。フランスでは日本の漫画がたくさん翻訳されているようで、驚きです。日本の漫画文化の影響力はすごいです。

また、今週号のアエラにも、「スポーツ漫画の名言で暑い心を取り戻す」との特集がありました。一つ紹介します。「やっぱ人生挑戦してナンボじゃん 強え奴がいねーと 生きがいになんねーだろうが 勝てねえぐらいがちょうどいい」（火神大我）「黒子のバスケ」言葉は少し乱暴ですが、負けた時の考え方を教えてくれる名言ですね。

### ☆国内外の経営者の主な言葉

鳥居信治郎（サントリー創業者）「やってみなはれ。やらな、わからしまへんで」。さすが青いバラを何十年かけて開発し、独創的な商品を次から次に出す企業の風土はここからきているのかなと思いました。

孫正義（ソフトバンク会長兼社長）「怒るのは自分の知恵の足りなさを認めるようなものです。」深く考えさせられる言葉ですね。私は、孫さんの言葉で「脳みそがちぎれるぐらい考えろ」が好きなんです。

マーク・ザッカーバーグ（フェイスブック共同創業者）『僕は毎日のように、こう自分に問いかけている「今、僕は自分にできる一番大切なことをやっているだろうか」』と一番大切なことが何かわかるまで時間がかかりそうですね。かみしめたい言葉です。

記事になっていたものを3つ紹介しました。短い言葉ですが、言葉の本質を理解するには、さまざま経験が必要です。しかし、子どもたちにも朝会で話し、言葉の意味を考える大切さを伝えていきたいです。

（'24.9.2発行 アエラより引用）